



ほっとするね
緑の府中

第 57 号

指導室 だより

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町 2-24
電話 042-335-4063

タイの大学訪問団が 府中の教育事情を視察

4月21・22日の2日間にわたってタイ国立シーナカリンウイロー大学訪問団14名が府中市の教育事情を視察した。

今回の訪問の目的は、当大学が付属幼稚園・小学校を設置するに当たって日本の幼稚園・小学校・中学校の実情を視察し、参考にするということであった。

府中市教育委員会では、訪問団を受け入れるに当たって、左記の視察日程を組み、実施した。

21日午前	教育委員会表敬訪問
午前	府中第一小学校訪問
午後	府中第三中学校訪問
22日午前	矢崎幼稚園訪問
午後	武藏台小学校訪問



府中第一小学校

パソコンを活用した授業風景

府中第一小学校（叶雅之校長）では、五年生の図画工作、木版画、二年生の国語、詩の朗読、六年生のパソコンを活用した授業を視察した。木版画の制作では、児童が彫刻刀で器用に彫つた作品をもらつて大変嬉しそうだったのが印象的であった。

授業の後、質疑応答が行われ、児童の評価の観点等について活発に質問が出された。

その後、訪問団は、最初の訪問先である府中第一小学校へ向かつた。

問先である府中第一小学校へ向かつた。

2日間にわたって府中市教育委員会の皆様や学校・幼稚園の皆様に温かく迎えていただきありがとうございました。バスから降りたら子どもたちが近寄つてくれ笑顔で迎えてくれたり、タイ語で挨拶をしてくれたりしたことが大変嬉しく思いました。

帰国したら府中市のよいモデルを参考にしてよい学校を作つてみたい。子どもたちはどこの国でも宝です。子どもたちのためにお互いに頑張りましょう。

◆ 団長のお礼の言葉

◆ 教育委員会表敬訪問

21日9時30分から府中市立教育センターにおいて訪問団の表敬訪問に対して府中市教育委員会では新海功教育長を始め職員がお迎え、歓迎の会を行つた。

まず、訪問団を代表してタイ国立シーナカリンウイロー大学副学長ソムチャイ・チューチャーがお詫びの意を表すとともに、府中市では新海功教育長を始め職員紹介した。

お互いのメンバーを紹介した後、質疑応答が行われ、府中市の教育予算、児童・生徒の授業料について、入学時の学区域の



英語活動の授業風景

武藏台小学校

問題、教育委員会の構成や役割、今年度の府中市教育委員会の主な方針等について熱心に質問をしていた。

その後、訪問団は、最初の訪問先である府中第一小学校へ向かつた。

質疑応答では、学校で重視していることは何か、英語を導入した理由やその成果、英語の研究の目的等の質問があつた。

積極的にたずねていた。



児童・生徒の体力の向上を図る

府中市立府中第六小学校 校長 河瀬 正

小学生の運動能力は、20年前をピークに低下し始め、ここ10年間は低水準のまま推移していることが、文部科学省が公表した「体力・運動能力調査」の結果で明らかになった。

現在の子どもの体力・運動能力調査の結果を、その親の世代である30年前と比較すると、ほとんどのテスト項目において子どもの世代が親の世代を下回っている。一方、身長、体重など子どもの体格は逆に子どもの世代が上回っている。このように体格が向上している現状は、身体能力が低下している現状とは、身

体能力の低下が深刻な状況であり、文部科学省は「これ以上下がりようのない危機的な水準でないか」と指摘している。子どもの体力の低下は、将来的には国民全体の体力の低下につながり、生活習慣病の増加やストレスへの抵抗の低下などを引き起こし、社会全体の活力

喪失につながりかねない。

そこで、昨年度本市で新体力テストを行った児童の実態を基に、児童の体力の実態を明らかにし、今後の対応を考えていく。

を上回っており、筋力や柔軟性は比較的高いといえる。

一方、反復横飛び、20秒シャトルランは大幅に平均値を下回り、敏捷性や持久力の低さが指摘される。また、中学二・三年生では、ほとんどの項目で全国平均に達していない結果となつた。

特徴としては、体格は、全体的にほぼ平均かそれより小柄であり、運動能力も全国平均と比較して低い傾向にある。特に敏捷性、持久力においてその特徴が顕著である。跳力や投力についても課題がある。

府中市の児童・生徒の体力の実態

における新体力テストを実施する。

今回の新体力テストの種目は小学校では、握力（筋力）・上体起こし（筋持久）・長座体前屈（柔軟性）

・反復横飛び（敏捷性）・20秒シャトルラン（全身持久力）、そして、50秒走

（疾走能力）・立ち幅跳び（跳躍能力）・ソフトボール投げ（投擲能力）の8種目を行い、自らの体力と運動能力の実態を明らかにすることができる。明らかになつた自らの体力の実態を基に、

体力を高める運動を授業の中で行っていくことが、次に大切な取り組みである。

本市の「体力向上委員会」で

は、昨年度の児童の実態を基に、児童・生徒の体力向上のための運動例を「モデルプラン」としてまとめた。「敏捷性」「持久力」「跳力」「投力」の向上を目指した運動例である。この運動例を各学年の体育授業で取り入れ、自らの体力の向上を意識させ運動を行わせることが大切である。

体力を高めるための取り組み

自らの体力を向上させるためには、まず自分の体力を把握することが大切である。そこで、

新学習指導要領では、体育の年間授業時数が、一年生は102時間、二年生から四年生は105

時間になり、「体づくり」の運動がどの学年にも入ってくる。

今後体育の授業の中で、高学年は自らの体力向上を意識させた運動の取り組みが必要であり、低・中学年においては巧緻性や全身持久力を高めるような運動遊びを中心に行なうこと

が体力の向上につながる。

4月より本校でも各学年、クラスごとに新体力テストを行っている。子どもたちはよい記録を出そぐ、反復横飛びや、ボール投げなど、休み時間に練習を行う。目的やねらいが分かることにつながる。



ソフトボール投げに挑戦！

巡回相談が始まつて2年が経つた。学校で出会う子どもたちの笑顔は、先生方の温かな眼差しの中でいつもきらきら輝いている。私たち相談員が関わるのは、



いつも ありがとうございます

巡回相談では、授業観察や、先生方・保護者との相談、校内委員会、他機関との連携を通してどうすればその子が笑顔で過ごせるかを共に考えさせていただいている。

巡回相談では、授業観察や、先生方・保護者との相談、校内委員会、他機関との連携を通してどうすればその子が笑顔で過ごせるかを共に応じて探す作業が必要になります。

いつも ありがとうございます

そうした本来のきらきらをうまく発揮できない子どもたちである。(表参照)

知的発達にアンバランスがある子ども、コミュニケーションをとるのが苦手な子ども、問題行動を繰り返す子ども……うまくいかない点は、その子の特徴、保護者・友達・先生との関係性により、一人一人違う。

ある先生は、育児不安に陥っている保護者を連絡帳のやりとりで支えていた。不安を受け止め、子どもへの対応を共に考えたり、保護者の自信につながるよう学校での様子、母子関係の良い変化を指摘したりした。結果的に、クラスでも不適応がちだった児童のがびのび力を發揮できるようになった。同じ連絡帳のやりとりで、保護者の目を子どもに向けることで、母子関係が安定し、情緒不安定が解消された例もあった。保護者と連携し複数の目ではぐくむと子どもたちはさらに輝いてくる。

同じように、複数の目を向けるアプローチに学校でのグループ対応があげられる。担任だけでなく、様々な教員が児童を共通理解し、対応・方針をあらかじめ決めておくことでうまくいく事例もあった。

「姿勢のいい○○さん」「静かに手を挙げた△△くん」と良い点を褒めて当てるようにした。必ず一度は当たり、活躍できる機会があることでその子は落ち着き、周りも納得して、みんなで満足することができるようになつた。

「姿勢のいい○○さん」「静かに手を挙げた△△くん」と良い点を褒めて当てるようにした。必ず一度は当たり、活躍できる機会があることでその子は落ち着き、周りも納得して、みんなで満足することができるようになつた。

特別支援相談室 ④

巡回相談19年度の活動を振り返って ～きらきら教室の宝探し～

巡回相談員 本間加恵子

表 平成19年度 相談回数

主訴分類	件数	%
1 発達障害に関する内容	2,098	42.4
2 性格・行動	690	13.9
3 問題行動等	548	11.1
4 不登校・登校しぶり	418	8.4
5 情緒不安定	398	8.0
6 その他	802	16.2
計	4,954	100.0

◆きらきら教室の宝探しさて、学校で子どもたちの生活を観ていると、先生方の素敵なサポートに出会う。相談員は「きらきら教室の宝探し」と題して、担当校で出会った先生方の対応を分かち合っている。それぞれのサポートはその時々、状況に依るものではあるが、共通のポイントもあるよう感じている。

◆複数の目で見る

ある先生は、育児不安に陥っている保護者を連絡帳のやりとりで支えていた。不安を受け止め、子どもへの対応を共に考えたり、保護者の自信につながるよう学校での様子、母子関係の良い変化を指摘したりした。

結果的に、クラスでも不適応がちだった児童のがびのび力を發揮できるようになった。同じ連絡帳のやりとりで、保護者の目を子どもに向けることで、母子関係が安定し、情緒不安定が解消された例もあった。保護者と連携し複数の目ではぐくむと子どもたちはさらに輝いてくる。

同じように、複数の目を向けるアプローチに学校でのグループ対応があげられる。担任だけではなく、様々な教員が児童を共通理解し、対応・方針をあらかじめ決めておくことでうまくいく事例もあった。

◆ナチュラル・サポート

また、特別支援が「特別」過ぎないことも、素敵な対応に共通している。特別な支援の必要

がいる教室では、のんびりマイペースな子への支援として、帰

りの仕度時にアップテンポの曲

を流していた。他の児童も曲が

終わるまでに、みんな揃って仕

度ができるようになつた。

別の学校では、授業中に當

たりの仕度時にアップテンポの曲

を取り上げて褒めることを徹底し

た。怒られないことで落ち着き、

褒められる行動が増えていった。

この他にも学校で出会った素

敵な対応はたくさんある。全て

◆褒め上手

きらきら教室の先生は褒め上

手である。

友達とトラブルを起こしやす

いBくん。けんかをして手を挙

げた後も怒りが収まらず、さら

に爆発しそうな状態に。先生が

「本当はいつもそうやって怒る

のを我慢してるんだよな、偉い

ぞ」と声をかけたとき、初めて

涙を流し、謝罪することができ

ていた。

別のある。多くは周りの子どもたちにも良いサポートとなる。ある教室では、のんびりマイペースな子への支援として、帰りの仕度時にアップテンポの曲を流していた。他の児童も曲が終わるまでに、みんな揃って仕度ができるようになつた。

別の学校では、授業中に当たりの仕度時にアップテンポの曲を取り上げて褒めることを徹底した。怒られないことで落ち着き、褒められる行動が増えていった。

この他にも学校で出会った素敵な対応はたくさんある。全て

を紹介できないのが残念だが、今年度も宝探しをしながら、教室のきらきらをもっと輝かせるため、少しでも役に立てるよう、巡回相談活動を充実させていきたい。

◆和太鼓クラブの活動
一年を通して、地域の行事に積極的に参加している。春の花祭り（多磨駅前）、盆踊り（朝日町）、ふれあいコンサート（青少対第一地区）、青少年音楽祭、太鼓の響等である。さらに今年度は、7月に多摩地区更正事業式典への参加が予定されている。様々な行事で出會う他の小学校や中学校、高校

本校には和太鼓クラブ、都立府中特別支援学校との交流、タグラグビークラブの三つの特色ある教育活動があり、それが学校に彩りを添えている。

◆府中特別支援学校との交流活動
一年を通して、地域の行事に積極的に参加している。春の花祭り（多磨駅前）、盆踊り（朝日町）、ふれあいコンサート（青少対第一地区）、青少年音楽祭、太鼓の響等である。

◆府中特別支援学校との交流活動
府中特別支援学校との交流も

わが校の特色ある教育 NO.23

白糸台小を彩る 伝統文化・交流・ ニュースポーツ

府中市立白糸台小学校
主幹教諭 德永 和弘



年間を通して行っている。
一年間の活動は具体的には両校の教員で、その年の交流計画について打ち合わせをすることからスタートするが、打ち合はせは各学年レベルで行い、昨年度の交流をベースに両校の児童の実態に沿った内容になるように計画している。

◆タグラグビークラブの活動

クラブ創設から今年で4年目を迎えた。練習は和太鼓と同様にクラブの時間を中心に行っていている。

◆保護者・地域と連携して

紹介した三つの特色ある教育活動は常に保護者・地域の様々な人々に支えられながら進められてきた。

今後とも「保護者・地域との連携」をより深めながら活動の充実に努めていきたい。

また、今年度からたてわり班活動も新たな特色として位置づけ、取り組んでいる。

◆タグラグビークラブの活動

クラブ創設から今年で4年目を迎えた。練習は和太鼓と同様にクラブの時間を中心に行っていている。

◆保護者・地域と連携して

紹介した三つの特色ある教育活動は常に保護者・地域の様々な人々に支えられながら進められてきた。

今後とも「保護者・地域との連携」をより深めながら活動の充実に努めていきたい。

本校ではその他に、東京外国语大学、若竹会（敬老会）との交流にも取り組んでいる。子どもたちにお互いを認め合う心や思いやりの心が育ちつつある。

◆府中特別支援学校との交流活動
本校ではその他に、東京外国语大学、若竹会（敬老会）との交流の積み重ねを通して、子供たちにお互いを認め合う心や思いやりの心が育ちつつある。



指導主事3名合計42名が
参加して行われた。
バス2台で府中市立教
育センターを出発し、新
緑の美しいけやき並木を
通り大國魂神社の前を通
過し、源義家像について
や古戦場の歴史等の説明
を聞きながら郷土の森博
物館へ到着した。



「ルミエール府中」（中央図書館）

新規採用教員・転入教員対象に

指導室では、今年度府中市に転入してきた教員と新規採用教員を対象として、5月13日（火）に市内巡り研修会を実施した。

ルになつた「くらやみ祭」のコロニーを始め、府中市の歴史、文化化、そして武藏野新田開発に貢献した川崎平右衛門等についての説明があつた。

されている。府中市に愛情や誇りをもつ子どもを育てるには、まず、教員自身が府中市を愛することが大切であり、そのためには、府中市のことをよく知ることが必要である。

等の初任者等研修会も兼ねており、32名が参加、
指導主事3名合計42名が
参加して行われた。

職員から複合施設や図書館の概要、図書の活用の仕方等についての説明があった。素晴らしい施設で、当日も利用者が大勢多かった。

「小・中学生科学教室」と「子どもサイエンススクール」が開講

そのうち2回は、「親子サイエンススクール」として行う。

★「小学生科学教室」は、教育センター科学実験室を主教室として、野外観察を含め年10回実施する。対象は五・六年生50名。

★「中学生科学教室」は、教育センター科学実験室を主教室として、野外観察や見学を含め年10回実施する。特別研修生は三年生対象

この事業は、市内在児童・生徒に対して科学の振興を図ることをとし、実験・観察を通して科学的な思考力や創造力を育成することをいいとしている。

平成20年度の府中市教育委員会主催の科学教育事業「小・中学生科学教室」と「子どももサイエンススクール」が5月から始まつた。

小学生科学教室

回	日程	内 容
1	5／10	農園の草花と樹木 (都立農業高校)
2	6／7	多摩川の事前学習 I
3	6／14	多摩川の自然観察 I
4	7／5	雑木林での観察 (多摩動物公園)
5	9／6	多摩川の事前学習 II
6	9／13	多摩川の自然観察 II
7	10／18	ほ乳動物の動きと体 (多摩動物公園)
8	11／1	動物解説員実習 (多摩動物公園)
9	1／17	国立科学博物館での 探究学習
10	2／7	冬鳥の観察と樹木 (郷土の森博物館)

中学生科学教室

回	日程	内 容
1	5／17	振り子の性質
2	5／31	動物の生態観察 (多摩動物公園)
3	7／12	天文学習 (郷土の森博物館)
4	8／2	細胞の観察
5	9／20	化学電池
6	10／12	等速直線運動
7	10／26	自由落下運動
8	11／8	電流と磁界
9	12／6	誘導電流
10	1／10	電磁誘導

子どもサイエンススクール

回	日程	内 容
1	5／24	ガラス細工作り I (トンボ玉作り)
2	6／21	ガラス細工作り II (マドラー作り)
3	6／28	炭電池作り
4	7／19	親子サイエンススクール ハンカチ染め
5	8／23	蒸気船作り
6	9／13	ホバークラフト作り
7	10／11	金属の性質と電気メッキで飾り作り
8	11／15	べっ甲アメ・カルメ焼き作り
9	12／13	親子サイエンススクール 鉱石ラジオ作り
10	1／24	不思議な色水・炎 カラーキャンドル作り

6月研修会・委員会等予定	曜	研修会・委員会等	会場	研修内容等
	2月	特別支援学級代表者会	教育センター	代表者会、分科会
	2月	初任者等研修会	生涯学習センター	水泳実技研修
	5木	小学校英語活動推進委員会	教育センター	全体会
	6金	ICT活用推進委員会	教育センター	全体会
	10火	初任者等研修会	是政文化センター	人権教育の推進
	10火	職場体験事業実行委員会	教育センター	全体会(課題検討)
	13金	人権教育推進委員会	教育センター	分科会(指導案検討等)
	16月	生活指導主任会	教育センター	全体会(連絡・検討事項)小・中分科会
	16月	食育推進委員会	教育センター	全体会、分科会
17火 特別支援コーディネーター研修会		教育センター	講義「特別支援教育の体制づくり」連絡会を兼ねる	
19木 教務主任会		教育センター	全体会(連絡・検討事項)小・中分科会	
20金 進路指導主任会		教育センター	全体会(連絡・検討事項)	

街の木々の葉が青々と茂り、
頬を伝う風が夏の到来を感じさせてくれる季節となりました。

各学校においては、運動会や体育祭の実施や準備が行われ、日常の教科等の学習活動に加えて学校行事においても充実した教育活動が展開されていることと想います。

さて、3月の学習指導要領の告示以来、次世代の子どもたちの教育内容について、先生方はもとより、保護者等の興味・関心が高まっています。

教育委員会では、新しい学習指導要領に基づき、円滑な実施が図られるように、「教育課程編成資料作成委員会」を発足しました。この会は、主に次の4点についての資料を作成します。(1)新学習指導要領改訂の趣旨や内容に関すること

(2)移行措置期間の対応に関すること

き、検討を重ね、来年3月には、資料として配付する予定です。

東京都教育委員会が以前行った、「公立小・中学校に関する教育モニターランク調査結果」によると、学習指導で学校に期待することの第一位に「基本的な学力をしっかりと身に付けさせるための指導」が示されています。そして、第二位に「自ら学び考える力の育成」が示されています。まさに、車の両輪のよう、バランスのとれた学力を子どもたちに付けることが求められています。

府中市においては、今年一年間を「耕し」の年ととらえ、全教職員の力を集結して、教育委員会と学校とが相互に知恵を出し合う中で、有効活用される教育課程編成資料を作成していくことを考えて

く教育課程編成に関することです。

各教科・領域等での部会を開き、検討を重ね、来年3月には、資料として配付する予定です。

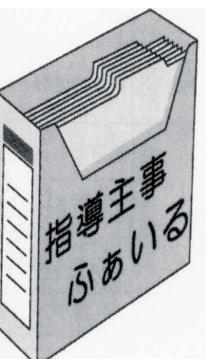
東京都教育委員会が以前行った、「公立小・中学校に関する教育モニターランク調査結果」によると、学習指導で学校に期待することの第一位に「基本的な学力をしっかりと身に付けさせるための指導」が示されています。そして、第二位に「自ら学び考える力の育成」が示されています。まさに、車の両輪のよう、バランスのとれた学力を子どもたちに付けることが求められています。

府中市においては、今年一年間を「耕し」の年ととらえ、全教職員の力を集結して、教育委員会と学校とが相互に知恵を出し合う中で、有効活用される教育課程編成資料を作成していくことを考えて

く教育課程編成に関することです。

各教科・領域等での部会を開き、検討を重ね、来年3月には、資料として配付する予定です。

給食から生きる力を



給食センター

栄養士 梅田 かおる

学びの窓

あとがき

2008年8月8日午後8時8分に開会式を迎える北京オリンピックが2ヶ月余に迫った。日本は馬場馬術団体の出場権を得ているが、メンバーの一人67歳の法華津寛さんは、1964年の東京オリンピックに出場して以来、実際に44年ぶりに再び出場する◆先日テレビで「44年間経つても、またオリンピックに出たいという気持ちにさせるものは何ですか」という問い合わせで、「まず、馬が好きなこと、そして練習の過程で少しづつがうまくなっていくのが分かる。それがモチベーションにつながっている」と答えていた◆まさにこれは教育の本質に重ね合わせることができる。まず、興味・関心をもつこと、そして、「できた」「わかった」という達成感・成就感を味わう喜びがあること、更にそれが次時への意欲の喚起につながることである◆

毎日の給食は児童・生徒に伝えたいことが、たくさん詰まっている。給食センターではできる限りの情報提供をしたいと考えている。日々の学校生活に是非活用し、生きる力をはぐくむ一助にしていただきたい。

（横山洋）

新しい学習指導要領の円滑な実施に向けて 「耕し」の一年へ

（指導主事 出町 桜一郎）